

野菜も、果物も、みんな元気に！

濃縮菌体堆肥

パフミン赤

カニガラ 8%



パフミン赤の効果で減農薬栽培にチャレンジ

土壌病害

特長

①カニガラ(キチン質)が含まれています

カニガラを形成するキチン質には、土壌中の有用菌(放線菌など)を増殖させ、病原菌(フザリウム菌・リゾクトニア菌など)の増殖を抑制する効果(拮抗作用)があり、土壌病害の発生を予防・軽減します。

②微生物がいっぱい

放線菌の働きでカニガラには連鎖障害を予防し、発症を抑制する効果があるため、土から感染する病気・障害が出にくくなります。

③腐植酸が豊富

酵母残渣・漢方残渣のパフミンは腐植酸が 17%含まれており、重量では 2.55kg となります。一般堆肥の 10 倍程度の腐植酸が含まれています。

使い方(例)

植物	袋/10a
トマト	15~20 袋
イチゴ	15~20 袋
キュウリ	15~20 袋
メロン	15~20 袋
その他	10~20 袋

【トマト】



*萎凋病 :カビ・フザリウム菌等
*根腐疫病:カビ・フィトフトラ菌等

【イチゴ】



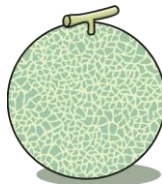
*萎黄病:カビ・フザリウム菌等
*根腐病:カビ・フィトフトラ菌等
*炭そ病:カビ・コレトリウム菌等
*萎凋病:カビ・パーティシリウム等

【キュウリ】



*白絹病 :カビ・ビシューム、
リゾクトリア菌
*疫病 :カビ・フィトフトラ菌等
*つる割病:カビ・フザリウム菌等
*苗立病 :カビ・リゾクトニア菌等

【メロン】



*白絹病 :カビ・ビシューム、
リゾクトリア菌
*疫病 :カビ・フィトフトラ菌等
*つる割病:カビ・フザリウム菌等
*苗立病 :カビ・リゾクトニア菌等

有機の肥効・キチンの効果・機械散布にも最適サイズ！

パフミン赤とは、かにから入ペレット

はじめに

最近の傾向として、連作による病害や生育障害が多発、深刻化し、産地崩壊の危機や作目転換を迫られる所が出ています。

こうした連作障害の最大の誘因として土壤微生物層の貧困化が指摘されています。【パフミン赤】は、生産性の安定と向上のために役立っています。

製法と成分

高級食用カニの殻を、乾燥粉碎し、練り込んでペレット成形したものです。各種微量元素を多量に含んでいます。大切な成分であるキチン質は、8%も含んでいます。

特長

1.連作障害の予防、軽減

土壌中にはさまざまな微生物が生息しています。ひとたび地力の低下を招くと土壤微生物のバランスが崩れ、病原菌が異常繁殖して作物の育成に重大な影響を与えます。【パフミン赤】は多量のキチン質を含むため、土壌中の有効微生物である放線菌、特にキチン質分解菌の繁殖を促します。キチン質分解菌はキチン分解酵素(キチナーゼ)を生成し、キチン質を含む細胞壁で体を守られているフザリウムやリゾクトニア菌などの増殖を抑制します(静菌効果)。これらの病原菌に起因する萎黄病、つる割病、苗立枯病などの予防、軽減に効果を発揮します。

2.品質、収量、日もちの向上

【パフミン赤】は肥効の高い有機態のチッソ、リン酸カリ及び石灰を供給し、作物の収量、品質を大きく向上させ日もちを高めま。又、豊富なカロチン、アミノ酸、微量元素は作物の代謝作用を向上させ、作物の味、いろつやを良くします。

3.地力の保全、向上

【パフミン赤】は土壤の有効微生物の栄養源にもなり、腐植を増し生きた土作りに役立ちます。土壤の通気性、保肥力を増加させ豊かな根群を育てます。又、有機石灰は土壤の酸度を中和し、リン酸の吸収を増大させ、チッソ、カリの吸収も高めま。

かにからの肥効及びキチンの効果は、日本や欧米の研究機関においても認められており、継続的な施用で豊かな土づくりが実現できます。

フザリウム、リゾクトニア菌による作物の主な病気

作物名	病名	菌名	作物名	病名	菌名
いちご	萎黄病	F	てんさい	根腐病	R
	芽枯病	R		葉腐病	R
きゅうり	つる割病	F		苗立枯病	F/R
すいか	つる割病	F	ねぎ	乾腐病	F
メロン	つる割病	F	たまねぎ	乾腐病	F
トマト	萎ちょう病	F	にんじん	乾腐病	F
なす	半枯病	F	いんげん えんどう そらまめ	立枯病	F
だいこん	萎黄病	F			
さといも	芽つぶれ病	F			
花卉・野菜	苗立枯病	F/R			
キャベツ	萎黄病	F	根腐病	F	

注：菌名の（F）とはフザリウム菌、（R）とはリゾクトニア菌を意味します。